

新入団員大歓迎です

一緒にうたいませんか。これから練習する新しい曲は …

次回 第26回定期演奏会（2024年秋の予定）で
取り上げる曲目

■ フォーレ作曲「レクイエム」

■ 山田耕筰作曲 増田純平編「からたちの花」他



2023年5月
練習風景
指導者：平井香織
ピアノ：清水良枝

表紙の風景は、「地球・人」の楽譜の表紙に使用したものです。

永い時間にわたり大地に根付いた人々の営みが感じられる岩手県の平泉、中尊寺の西約15kmにある「^{ほねでらむら}骨寺村荘園遺跡」です。鎌倉時代「^{ほねでらむら}骨寺村の荘園」は、中尊寺^{きょうどう}経蔵別当の所領でした。当時 描かれた骨寺村の絵図と現在の風景とほぼ同じなので2005年に国の史跡に指定され、2006年に史跡指定区域を包括する伝統的な村落景観が「^{いちのせき ほんでら}一関本寺の農村景観」として重要文化的景観に選定されました。

練習日時：毎週日曜日午後6時半から

主な練習場所：たづくり9階研修室

<http://www.chofuchor.org/>



レイアウト・デザイン：内山協一

調布市民合唱団

創立 45 周年記念

第25回定期演奏会

2023年5月27日(土)

府中の森 芸術劇場
ウィーンホール



1

武満 徹 作曲

混声合唱のための

うた

より

島へ

恋のかくれんぼ

○と△の歌

翼

明日ハ晴レカナ、曇リカナ

2

佐藤 宏 文 作曲

ソプラノソロと混声合唱のための

地球・人

ソプラノ：平井香織

ピアノ：清水良枝

3

MAURICE DURUFLÉ

モーリス・デュリュフレ

REQUIEM

メゾソプラノ：池田香織

バリトン：大沼徹

パイプオルガン：新山恵理

エピローグ

武満徹 作詞作曲

小さな空

佐藤宏 作詞作曲

ありがとう

調布市民合唱団の 演奏記録

1978年 3月	調布市民合唱団発足 発足から第6回定期演奏会まで、汐澤安彦 菅野宏昭、田中誠の指導を受ける。
1993年7月	指導者に佐藤宏を迎える
1995年 6月 第 7 回定期演奏会 ウィーンホール	パレストリーナ作曲「ミサプレヴィス」 高田三郎作曲「心の四季」 バーンスタイン作曲「West side Story」より
1996年 6月 第 8 回定期演奏会 くすのきホール	團伊玖磨作曲「川のほとりで」 山田耕柝作曲・増田純平編曲「からたちの花」 モーツァルト作曲「ミサプレヴィスト長調」
1997年 6月 第 9 回定期演奏会 くすのきホール	武満徹作曲「うた」より 小林秀雄作曲「落葉松」 ケルビーニ作曲「レクイエム」
1999年4月 20周年記念 第10回定期演奏会 くすのきホール	荻久保和明作曲「季節へのまなざし」 山田耕柝作曲・増田純平編曲「からたちの花」より フォーレ作曲「レクイエム」
2000年 6月 第11回定期演奏会 風のホール	パレストリーナ作曲「教皇マルチェッリのミサ」 三善晃作曲「五つの童画」より 源田俊一郎編曲「ふるさとの四季」
2001年10月 第12回定期演奏会 ウィーンホール	萩原英彦作曲「光る砂漠」 武満徹作曲「うた」より デュリュフレ作曲「レクイエム」
2003年 7月 第13回定期演奏会 風のホール	林光編曲「日本抒情歌曲集」 三善晃作曲「五つの童画」 佐藤宏「レクイエム」
2005年 6月 第14回定期演奏会 くすのきホール	三善晃作曲「嫁ぐ娘に」 ブーランク作曲「グローリア」 若松正司編曲「ディズニー合唱曲集」より
2006年10月 第15回定期演奏会 くすのきホール	林光編曲「日本抒情歌曲集」より タリス作曲「四声のミサ曲」 モーツァルト作曲「ミサプレビス ト長調」
2008年5月 第16回定期演奏会 ウィーンホール	木下牧子作曲「方舟」 武満徹作曲「うた」より デュリュフレ作曲「レクイエム」
2009年11月 第17回定期演奏会 くすのきホール	バッハ作曲「ミサ曲ト短調 BWV 235」 木下牧子作曲「アカペラ・コーラスセレクション」より 新実徳秀作曲「花に寄せて」
2011年 6月 第18回定期演奏会 くすのきホール	萩原英彦作曲「白い木馬」 武満徹作曲「うた」より フォーレ作曲「レクイエム」
2012年 5月 第19回定期演奏会 くすのきホール	バッハ作曲「ミサ曲ト長調 BWV 236」 山田耕柝 増田順平編曲「からたちの花」より 源田俊一郎編曲「いつの日か」
2013年10月 第20回定期演奏会 グリーンホール	武満徹作曲 「うた」より、さくら モーツァルト作曲「レクイエム」
2015年 5月 第21回定期演奏会 くすのきホール	信長貴富作曲「等圧線」 三善晃作曲「小さな目」 ラター作曲「グローリア」
2017年4月 第22回定期演奏会 ウィーンホール	ボブ・チルコット作曲「A Little Jazz Mass」 林光編曲「日本抒情歌曲集」より 高田三郎作曲「水のいのち」
2018年 9月 第23回定期演奏会 ウィーンホール	新実徳英作曲「幼年連祷」 「アカペラ・アラカルト」10曲 ラター作曲「レクイエム」
2021年11月 第24回定期演奏会 くすのきホール	佐藤宏作曲「どんなときでも」「ありがとう」 オリンピック開催国の愛唱歌 池辺晋一郎作曲「六つの子守唄」 ヴィヴァルディ作曲「グローリア」



2023年5月 練習風景

Soprano

浅野 英子
荒井 尚子
荒木 葉子
市村 祐子
入部 志津子
織笠 洋子
片山 三枝子
亀ヶ谷 幸子
工藤 弘子
佐藤 庸子
澤田 みちか
高橋 愛子

Alto

安倍 菜々子
市川 項子
内山 啓子
瓦林 紀子
木村 豊江
小森 モリ
関 京子
竹内 由紀子

Tenor

武川 圭子
辻木 洋子
寺西 由美
中富 允子
松井 友子
室崎 伊紀子
吉永 靖子
柳 怡敏

Bass

生田 周治
石渡 尚夫
泉 清之
岡野屋 正男
小室 滋
白岩 勝
高野 敦男
初貝 丈義
本田 勉
宮内 恒夫

ごあいさつ

調布市民合唱団団長 生田 周治

本日はお忙しい中、調布市民合唱団第25回定期演奏会にお越しいただきありがとうございます。

本年は当合唱団が発足した1978年から45年の節目を迎えました。ベートーベンの「第9」を歌うために集まった市民が歓喜の合唱そのままに歌い続けてまいりました。思えばこの「歌う力」が、様々な天災・人災を乗り越える支えになってきたのだらうと感慨を深くしております。

これまでの演奏会では、宗教曲、無伴奏の合唱曲など多くの曲を取り上げてまいりましたが、今回の武満徹作品やデュリュフレの「レクイエム」、当合唱団の指導をいただいている佐藤宏先生の書下ろし作品「地球・人」は、地球規模でまん延した新型コロナ感染症や繰り返される戦禍が私たちに与えた多くの思いを「祈り」として聴いていただく皆様と共鳴できたらと願っております。

これからも、背中が丸まっても合唱の練習に来ると自然に背筋が伸びて明日の糧になるような、生活に欠かせない合唱団として活動を続けて参りますので、皆様方も私たちと一緒に歌を楽しんでみませんか。今後とも応援のほどよろしく願いいたします。

指揮 佐藤 宏

国立音楽大学作曲科卒業。在学中より東京室内歌劇場において指揮活動を始める。近年は東京二期会をはじめ数多くのオペラ公演で合唱指揮を務めるなど、日本のオペラ界を担う存在として広く活躍する。一方、プロ、アマチュア共に多くの合唱団を指揮・指導し、バロックから現代まで幅広いジャンルにおける自由かつ新鮮なアプローチで好評を博している。また、作曲にも力を注いでおり、主な作品には「レクイエム」「月」「夢のそばで」自ら作詩も手掛けた「ありがとう」等々がある。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部講師、二期会オペラ研修所講師。藤原歌劇団団員。



調布市民合唱団のこと 佐藤 宏

この合唱団とのつながりは資料によれば30年になるそうです。もはや資料を介さなければ正確に答えられません。それほど長くやってこられたのは何だったのか？ この合唱団はコンクールに向かっていくような性格を持っていません。ひょっとしたら一週間のうちに楽譜を開くのは練習の時だけの人がいるかもしれません。その割には共に演奏してきた曲目はことは同じような団体にはちょっと手を出しにくい曲が多い。なぜそのような曲を選ぶのか？一つには団の皆さんに曲の素晴らしさを知ってもらいたいからです。以前も書いた覚えがありますが、山を見ると登ると大きな違いがあるように、曲を聴くのと演奏してみるのとでは全く違うのです。完成された演奏にはちょっとほど遠いですがこつこつと練習していくと近い音になってくる。私にとってのささやかな幸せタイムです。なぜなら偉大な作曲家に皆さんが近づけた瞬間なのだから。難曲に挑めるもう一つの理由は欠席が少ないことです。コロナ禍の練習でも欠席は少なかった。皆さん本当に歌が好きなのです。私は難曲に挑み諦めない皆さんが大好きなのです。



2022年11月 調布市民文化祭 音楽祭 グリーンホールにて

ソプラノ 平井 香織

国立音楽大学卒業、同大学大学院リート科修了。『奥様女中』『魔笛』『ランメルモールのルチア』『清教徒』『夕鶴』『カルメル会修道女の対話』等のオペラに出演。近年では『ラインの黄金』『ワルキューレ』『神々の黄昏』『エレクトラ』『カルメン』『ピーター・グライムズ』『死の都』等、新国立劇場公演に多数出演。20/21 オープニング『夏の夜の夢』には主役タイターニアで出演し高い評価を得た。その他若杉弘指揮『ダナエの愛』、準メルクル指揮『ヴィーナスとアドニス』、シャルル・デュトワ指揮『エレクトラ』等のソプラノソロとして多くの主要オーケストラと共演。国立音楽大学准教授。二期会オペラ研修所講師。二期会会員。



メゾソプラノ 池田 香織

慶應義塾大学卒業。《びわ湖リング》にエルダ・ブリュンヒルデで出演したほか、東京二期会《トリスタンとイゾルデ》《サムソンとデリラ》、新国立劇場《ワルキューレ》などに出演。オーケストラとの共演も多く、マーラー交響曲第2番「復活」、ベートーヴェン「荘厳ミサ曲」、マーラー「交響曲第3番」、サーリアホ《遙かなる愛》、ヴェルディ「レクイエム」、ファリャ「三角帽子」「恋は魔術師」、ワーグナー「ヴェーゼンドンク歌曲集」など。第34回ミュージック・ペンクラブ音楽賞ソロ・アーティスト部門受賞。二期会会員。



バリトン 大沼 徹

東海大学教養学部芸術学科卒、同大学院在学中、フンボルト大学で学ぶ。二期会オペラ研修所修了(最優秀賞)。第21回五島記念文化賞オペラ部門新人賞を受賞し、独マイセンに留学。二期会ニューウェーブ・オペラ劇場『ウリッセの帰還』題名役で二期会デビュー。近年の主な出演は新国立劇場『沈黙』ヴァリニアーノ、『トスカ』アンジェロッティ、同劇場鑑賞教室『蝶々夫人』シャープレス、日生劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『ランメルモールのルチア』エンリーコ、藤沢市民オペラ『トスカ』スカルピア等があり、東京二期会でも『サロメ』ヨカナーン、『フィデリオ』ドン・ピツァロ、『タンホイザー』ヴォルフラム『フィガロの結婚』伯爵等、バリトンの主要な役を数多く演じる。今後は日生劇場『マクベス』題名役で出演予定。東海大学教養学部、国立音楽大学音楽学部各非常勤講師。二期会会員

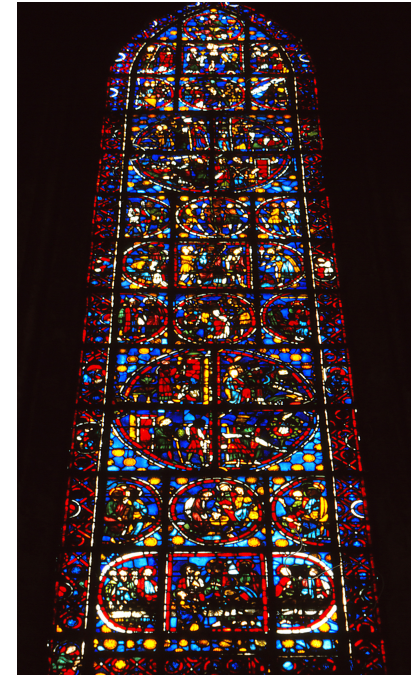


フランスのオルガン音楽は、1531年楽曲の出版が始まり、宮廷の中から国中に広まりました。1789年フランス革命の際に王様は処刑され、教会と共に沢山のオルガンも破壊され、オルガン音楽は大きなダメージを受けました。18世紀には世俗音楽ともつながり人々の中に入っていました。19世紀ようやくフランス独自の近代オルガンが作られました。製作者カバイエ・コル(1811～1899)はフランスのロマンチック・オルガンの創始者としてフランスからイギリス、ドイツに影響をあたえました。

モーリス・デュリュフレのオルガンと合唱による「レクイエム」のオルガンパートは演奏が大変難しい作品ですがオルガンを知り尽くしたデュリュフレだからこその作品とのことでした。

デュリュフレの「レクイエム」は調布市民合唱団にとって3回目の演奏となりますが、コロナの大災禍、ロシアのウクライナへの侵攻、世界中に及ぶそれらの影響を超えた新しい生き方、互いの繋がりを求めて生きる力になることを願ってうたいたいとおもいます。

内山啓子



ルーアン大聖堂のステンドグラス

エピローグ

武満徹 作詞作曲 小さな空

東京混声合唱団のために作詩作曲され、1981年4月 田中信明指揮による東京混声合唱団で初演された。アカペラで8部合唱となっているところもあり、歌う楽しさと併せて緊張感が要求される曲です。

佐藤宏 作詞作曲 ありがとう

「ありがとう」は2013年、急に目まいがひどくなり一週間近くの入院を余儀なくされたことがありました。じっとベッドに横たわるしかない毎日。その時ふと思ったのです。この歳（あと少しで還暦）になるまで色々な方々にお世話になったな〜と。その感謝の気持ちを曲にしたいと思い書いたものです。

佐藤宏

3 MAURICE DURUFLE モーリス・デュリュフレ

REQUIEM



1962年頃の
デュリュフレ

モーリス・デュリュフレは 1902年1月11日、フランスのノルマンディ地方にあるルーアンの南30kmのルヴィエで生まれました。幼少より音楽の才能を現し10歳でルーアン大聖堂の聖歌隊に入り、合唱、オルガンを学び、17歳のときパリのコンセルヴァトアールに入学。20歳から26歳の間に作曲科、ピアノ科、和声法、オルガン科で表彰されています。

デュリュフレは第1次世界大戦と第2次世界大戦を体験しました。とりわけ第2次世界大戦中、連合軍のノルマンディー上陸作戦が展開され敵味方とも多くの戦死者や犠牲者が出て、オルガンを演奏したルーアン大聖堂も破壊されました。

1945年に戦争が終わり1947年デュラン楽譜出版社

の依頼により「レクイエム作品9」がグレゴリオ聖歌をもとに作曲されました。

「レクイエム」の冒頭に「à la mémoire de mon père」父の思い出のために、と記載されていることに何か思いがあるのでしょうか。

REQUIEM は 1. introit で波の満ち引きを思わせるような音から始まります。オルガンと合唱、バリトンが戦争の痛み、苦しみ、助けを求めるいのりを激しく美しく繰り返したいです。他の作曲家のレクイエムにあらわれる「怒りの日」は省略され「リベラメ」と「イン パラディズム」に天国の平安を祈って終曲となります。今、世界中が同じ思いに向き合っています。

オルガンの歴史は古くローマのネロの時代、闘技場に雰囲気ロック会場のように盛り上げるために設置されていたそうです。またオルガンはキリスト教と深くつながりヨーロッパ各地に広まり、それぞれ独自に発展して、Choral（賛美歌）ミサの合唱隊と共に、教会の活動に貢献しました。オルガンの奏者は作曲家でもあり、パッサもその大きな一人です。



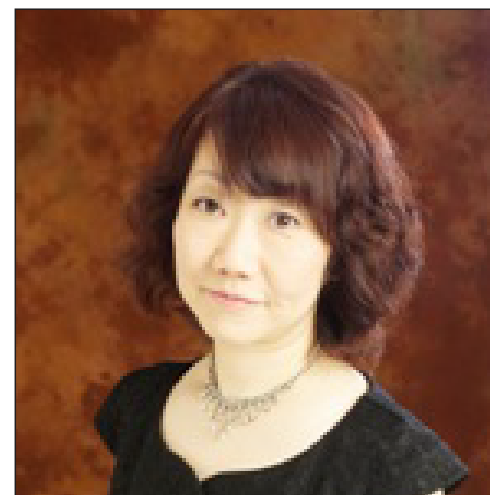
右のルーアン大聖堂はモネの絵でも知られています。モネはルーアンから20kmのジベルニーに睡蓮の池をつくり沢山の睡蓮を描いています。

ルーアン大聖堂
ノートルダム大聖堂とも呼ばれている
尖塔



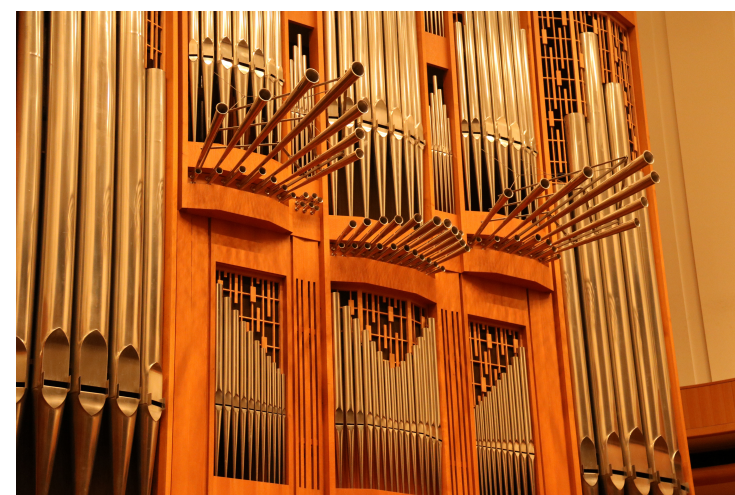
ピアノ 清水 良枝

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。ピアノを井口基成・馬島瑞枝・森安芳樹各氏、アンサンブルを岩崎淑・安田謙一郎他に師事。 各種リサイタルの伴奏、合唱ピアニスト、オーケストラ鍵盤楽器奏者として 国内外での様々なコンサート・イベントに出演。著名演奏家との共演も数多く、各共演者からの信頼は厚い。共演CD多数。芥川也寸志・高田三郎・中田喜直・平井康三郎他 著名作曲家からも絶賛される。プロ合唱団において 教育用CD録音や文化庁等による学校公演にも積極的に取り組んでいる。親しみやすい音楽会創りにも励み 精力的に活動している。



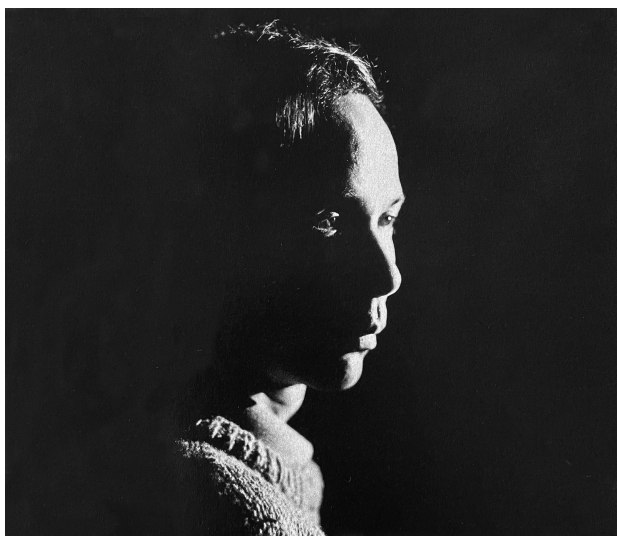
パイプオルガン 新山 恵理

東京藝術大学音楽学部オルガン科卒業、同大学院修了。仏・リール国立音楽院に学び満場一致の一等賞を得て首席卒業、各国際アカデミーにおいて研鑽を積む。各地の歴史的楽器での演奏会、18世紀建造楽器の修復記念公演に招待される。NHK-FM「朝のバロック」、NHK-TV「名曲アルバム」などに出演。ソロ演奏の他、各オーケストラとの共演、合唱団・アンサンブルとの活動を続ける一方、市民講座・講習会等にも取り組み、2023年3月まで30年間東京芸術劇場で副オルガニストを務めた。現在アクトシティ浜松副オルガニスト。日本オルガニスト協会会員。



北ドイツ・キールという町にある、
オトー・パッセン社が1991年に制
作した3段鍵盤+ペダル 46ストップ
のパイプオルガン

1 武満 徹 混声合唱のための うた



私は「ユーミンが好き」と言いながら心の何処かであの「八月の濡れた砂」の「石川セリ」に憧れていたかも知れません。当時、大人っぽく、光と同時に影を感じさせる、あの魅力的な雰囲気のある声に。あっ、武満徹についてでしたね。でも、関係があるのです。なんと、あの武満徹も石川セリの声が好きだったらしいのです。

武満徹と言えば、ストラヴィンスキーが来日した際、武満徹の作品を絶賛したことが有名。NHKドラマ「源義経」のテーマ曲の作曲、また、バーンスタインに依頼されての作曲…… etc.と言う日本の現代音楽を代表する偉大な作曲家です。

石川セリ（夫はあの井上陽水）は一時歌手活動を休止していましたが、10年ぶりにCDを出しました。それが「翼 武満徹 ポップソングミュージック」でした。それも、武満徹の方が石川セリの声に惚れ込んでその願いがかなって出来たのがこのアルバムだったそうです。「翼」は「パルコ+番衆プロ」公演の劇「ウィングス」の主題歌でしたが、石川セリのCD収録の方が先でした。このCDには「島へ」「明日ハ晴レカナ曇リカナ」「翼」「小さな空」が収録されています。

「恋のかくれんぼ」は映画の挿入歌でベギー葉山が歌っていましたし、「○と△の歌」は羽仁進監督の「不良少年」劇中歌でした。「○と△の歌」はノリの良い軽い感じのようですが、実は深いのだと思います。「地球は丸い、空は青く、海は深い、小さな星。みんな○と△でXは要らない！ロシアはすでに広いし、バラライカ（ロシアの伝統楽器名）も△だぜ！」と言っていたのです。

武満徹の「うた」はどれも「詩」が素敵で、「音」の響かせ方、重ね方、選び方が独特というか、センス光っています。オシャレな音とリズムがジャズっぽくてカッコよいところがあります。こんな素敵な「うた」をアカペラで表現するのはとても難しいですが、喜びも大きいのです。

武川 圭子

2 佐藤 宏 ソプラノソロと 混声合唱のための 地球・人

「地球・人」について 佐藤 宏

この曲はこの合唱団が創設45周年と25回目の定期演奏会を迎えるにあたって長年一緒に合唱団を引っ張っていただいている平井香織さん清水良枝さんと共に演奏できる曲を書けないかと思い立ち団に提案し実現するものです。当初はお祝い気分の柔らかい雰囲気やささやかな幸せを感じるような曲を書きたいと思っていました。しかしながら今の世界を見ているととてもそんな気分になれず時間だけが過ぎていきました。タイムリミットも迫ったこともありここは方向を変え、以前より私が思っていることを文にしてそれに曲を付けることにしました。作詞とせず文としたのは、私は残念ながら詩的センスを持ち合わせていないからです。内容は読んでいただいたそのままです。今日皆さんと初演できることにただただ感謝感謝！！



はかない命が出会えて、生きてきたところ・・・の一例 秩父の棚田